

## 令和7年度 学校経営方針の努力点・具体策及び重点課題

努力点	内容及び具体策
1 学校経営の充実	<p>学校経営方針に沿った教育を進める。 人権尊重の精神に基づく学校経営に徹する。</p> <p>(1) 義務教育学校の目的とよさの教育課程への位置付けと具体化 (小中一貫教育の推進と教員の専門教科指導の拡充)</p> <p>(2) 自己に自信をもつことのできる教育活動の推進【自己肯定感・有用感】 (夢や希望、目標の実現に向かって努力する児童生徒の育成)</p> <p>(3) 「島立ち」を見通した自立心を養う教育活動の設定</p> <p>(4) 園・学校、地域連携による教育活動の推進</p> <p>(5) 極小規模における小中一貫教育の活動の展開</p> <p>(6) 特色ある教育活動の運営と広報(口之島からの積極的な発信) ※新聞などメディアを活用した取組や作品の積極的な投稿</p>
2 教育環境の整備・充実	<p>共に生活する環境づくりを推進する。</p> <p>(1) 学校・学級園や地域花壇を生かした口之島環境づくり(花の管理)</p> <p>(2) 計画的な職員作業(様々な活動の円滑な実施のための事前準備等)</p> <p>(3) 校舎内設営の充実(教室、廊下、踊り場等)</p> <p>(4) 学習目標に資するタブレット等のICT機器・アプリの活用</p> <p>(5) 「タモトユリの島」への自覚(栽培・育成と観察)</p>
3 教職員の資質向上	<p>教育公務員としての自覚をもち、教師力・授業力向上を図る。</p> <p>(1) 島内外での自覚ある行動(服務規律と挨拶、言葉遣い、接遇、服装等)</p> <p>(2) 服務ファイルの活用(資料ファイル化と感想記入、定期的なチェック)</p> <p>(3) 校内研究テーマに基づく実践的研究(研究授業・教育論文等)</p> <p>(4) 目的意識を持った研修への参加と研修履歴の入力、振り返り・改善</p> <p>(5) 同僚性を生かした授業力向上への取組(合同授業、乗り入れ授業等)</p>
4 学習指導の充実	<p>児童・生徒の姿(結果や態度)で表す。</p> <p>(1) 諸学力等検査の数値目標の設定(個々の児童生徒の前年度比アップ)</p> <p>(2) 弾力的な授業の推進(少人数授業、複式解消授業等)</p> <p>(3) 個別の補充指導や、つまづきを見出し授業につなぐ家庭学習の実践</p> <p>(4) 自ら考え学ぶ「パワーアップタイム」(週1回 朝の時間)</p> <p>(5) 各種資料の活用 (学びの羅針盤、授業アイディア例、各種学力調査の設問場面の活用 等)</p> <p>(6) テレビ会議システム及びタブレット、デジタル教科書等の積極的活用 ①日常的な端末活用授業 ②各種アプリの学習活用</p> <p>(7) タブレット持ち帰りを活用した家庭学習の在り方の研究</p> <p>(8) 学校図書室の積極的な活用と読書への意欲喚起(読書量の向上)</p>
5 心に届く生徒指導	<p>「耳を傾け、寄り添う」姿勢と方向性を導く生徒指導を推進する。</p> <p>(1) 生徒指導提要の精神を踏まえた、心に届く生徒指導の充実</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の育成の徹底 (挨拶、時間の区別、共に学び生活するための規範意識)</p> <p>(3) 児童生徒理解と情報の共有化 (毎金曜日の職員会議での情報共有、毎月のいじめアンケートの実施、SOSの出し方・受け止め方への理解促進、SGE手法の実践)</p> <p>(4) 生活習慣の確立(Kカード、学校楽しいーと、個別面談等)</p> <p>(5) 山海留学制度の充実(実親や寮監・里親との連携、育成会との連携)</p>
6 道徳教育の充実	<p>「特別の教科 道徳」を要に児童生徒の道徳心を育む。</p> <p>(1) 授業の充実と評価の研究(職員研修等)</p> <p>(2) 授業の「振り返り」における児童生徒の変容の見取りと還元</p> <p>(3) 「生命尊重」「自己肯定感」「規範意識・公共マナー」を基盤とした道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成(重点の設定、体験活動の充実)</p> <p>(4) 読書活動の充実(読書冊数増加への工夫、外部図書の利用等)</p> <p>(5) 合同学習(活動)による異年齢間の相互の教え合いを通した協同性、主体性、思いやりの育成</p>
7 人権教育の充実	<p>「見つめ、思いをめぐらせ、向き合う」(MOM)を根本に据える。</p> <p>(1) 人権感覚の涵養と知識・意識向上 (冊子「なくそう差別、築こう明るい社会」及び各種教材の積極的活用)</p> <p>(2) 差別や偏見のない人権同和教育の推進(人権集会等)</p> <p>(3) 家庭や地域との連携による人権教育の推進(社会教育学級等)</p>

努力点	内容及び具体策
8 特別支援教育の充実と具体化	<p>「困った子」から「困っている子」への意識転換を図る。</p> <p>(1) 校内支援委員会・事例研修会の充実（情報共有・支援体制の確立等）  ※義務教育学校の小中一貫教育を生かした学習支援体制の具体化・実践  ※特別支援学級開級を見据えた児童生徒と保護者との情報共有</p> <p>(2) 個別指導・支援計画づくり（確実な作成と活用、引継）</p> <p>(3) 村教育支援委員会・村特別支援教育部会及び専門機関との連携  (SC, 保健師, 巡回相談 等)</p> <p>(4) ユニバーサルデザインを取り入れた環境づくり  (どの子にも見やすく分かりやすい学校環境・教室環境)</p>
9 保健・給食・安全指導の充実	<p>保健（健康）及び望ましい食習慣を身に付け、安全・安心の学校にする。</p> <p>(1) 個に応じた保健（健康）習慣の確立  (朝の健康チェック, 歯や目の健康カード作成, メディア時間管理等)</p> <p>(2) 自己肯定感を育むリフレイミング法の実践活用</p> <p>(3) 日々の感染症等の予防行動の推進  (新型コロナウイルス, インフルエンザ, 他) と熱中症対策</p> <p>(4) 望ましい食生活の推進や食事マナーの育成（保健指導, 委員会等）</p> <p>(5) K Y T の育成（実態に即した避難訓練, 外部人材の活用等）</p> <p>(6) 通学路の点検と交通安全教室の改善・工夫（島外避難訓練等）</p> <p>(7) 施設設備の定期点検・補修と事故防止指導の徹底（安全点検等）</p> <p>(8) 「生命（いのち）の安全教育」の推進</p>
10 体力づくりの生活化	<p>「運動好き」を増やし、最後まであきらめない強い気持ちを養う。</p> <p>(1) 一輪車・竹馬, なわとび運動の習慣化  (学習カード作成, 運動会種目の工夫等)</p> <p>(2) マラソン大会等の取組（長距離走授業, ランニング指導等）</p> <p>(3) 運動時間の確保（児童生徒の自主的な体力づくり活動の推進）</p> <p>(4) 「チャレンジかごしま」への参加（目標設定, 年2回の記録申告）</p>
11 進路指導の充実とキャリア教育の推進	<p>「夢や希望」（目標）をもって自らの進路を考える。</p> <p>(1) 自己の「夢や希望」（目標）をもち、達成に向かう主体的な実践指導</p> <p>(2) 計画的・系統的な進路指導（学活・キャリア教育の計画改善等）</p> <p>(3) 個に応じた進路指導の推進（7島による進路指導担当者会等）</p> <p>(4) 目的意識を持った進路選択の支援（年2回の受験生の集い等）</p> <p>(5) 児童生徒が主体となる体験学習活動の工夫と実践</p> <p>(6) 適正な進路資料、進路情報の収集と提供（県内外の情報収集）</p>
12 家庭や地域との連携と開かれた学校づくり	<p>「家庭と共にある学校、地域あっての学校」意識による三者連携を図る。</p> <p>(1) 家庭との連携  (保護者：留学生の実親を含む, 寮監, 里親との情報交換・共有)</p> <p>(2) 口之島の理解（「タモトユリ」「狂言」「野生牛」等の研修）</p> <p>(3) 地域の取組等への積極的な参加とかかわり  ア 地域行事への参加（盆踊り, 狂言, 敬老会, 十五夜等）  イ 子ども会活動との連携（学校キャンプ, 夕涼み会, 海釣り大会等）  ウ 地域と共に楽しむ運動会と文化祭（島内外の方々との交流）</p> <p>(4) 高齢者支援施設（なごみの里）との交流</p> <p>(5) 「くちっこ園」との連携（合同行事実施, A L Tによる英語遊び活動）</p> <p>(6) 島内外の人材の積極的な活用  (総合的な学習「トカラ科」への講師派遣, 職員研修での講話, 新聞インタビュー, 社会教育学級等)</p> <p>(7) 積極的な情報発信  (H P・ブログ, 学校だより, 児童生徒会新聞, 新聞投稿・記事等）</p>
13 業務改善の推進	<p>活力ある教師になるための働き方改革を進める。</p> <p>(1) 業務時間の管理（タイムカード打刻と月ごとの振り返り, 管理職指導）</p> <p>(2) 月ごとの時間外勤務時間の振り返りと状況に応じた医師等への面接指導の取組</p> <p>(3) 定時退校日と日々の退校時刻の設定による時間の意識付け</p> <p>(4) 校務のための文書やデータの整理・共有（共有フォルダの整理と活用）</p> <p>(5) 行事・活動の内容の振り返りと見直し  (継続実践でも内容の見直し・改善)</p> <p>(6) 人間ドック等の確実な健康診断の受診と遠慮しない事後受診の共通理解</p>

# 令和7年度重点課題

☆人権同和教育の推進

## 1 基礎・基本の定着と根柢に基づく表現力【記述力】の向上

- (1) 学びの基盤となる「三つの構え」の醸成（心構え・身構え・物構え：忘れ物〇）
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（個別最適、協働的な学び）
  - ア 諸学力調査結果の分析・授業改善や「学びの羅針盤」等の活用
  - イ めあての明確化（主体的な学びにつながるめあての設定）とまとめの整合性
  - ウ 非認知スキルの大切さの再認識と向上
  - エ ラスト10分間のジャッジの確保（メタ認知、確実な見届け、家庭学習へのつなぎ）
- (3) 複式学習指導の充実
  - ア I C T機器の有効な活用

## 2 心豊かで思いやりのある言動の涵養

- (1) M o m〔見つめる：思いをめぐらす：向き合う〕に基づく人権教育
  - ア 人権教育研修資料「なくそう差別 築こう明るい社会」の活用
  - イ いじめ根絶（S O Sの出し方、受け止め方への理解促進）
  - ウ 支持的風土に基づく異年齢集団の仲間作り（構成的グループエンカウンター）
- (2) 特別の教科道徳の充実
  - ア 「いじめ問題を考える週間」の取組充実
  - イ 成長の累積と還元
- (3) 発達段階に応じた計画的な情報モラル教育の工夫・強化

## 3 特別支援教育の充実

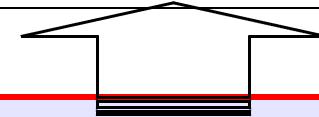
- (1) 校内支援委員会の充実
  - ア 個に応じた支援及び合理的配慮の推進
  - イ 情報共有と全校体制での支援、引継ぎ 等
- (2) 関係機関（診療所・S C等）との連携強化

## 4 体力・気力つくりの充実

- (1) 自主的運動の継続
  - ア 一輪車、竹馬、ボール運動等への挑戦
- (2) 体力・運動能力調査結果を活用した個別指導
- (3) 口之島の自然環境の活用
  - ア カヌ一体験、水泳学習 等

## 5 豊かなふるさと教育の充実

- (1) 地域人材（地域学校協働活動）の充実
- (2) 口之島ならではの問題解決的・体験的活動（トカラ科の充実）
  - ア 米作り、タケノコ掘り、追い込み漁、タモトユリ、農園活用 等
- (3) 新聞作りを通して、故郷のよさ発見



## 口之島ならではの教育

口之島を「生かす」	授業	①小中一貫教育の趣旨を生かした授業の在り方の研究 ②地域を活用した授業の実践 ③少人数指導による課題対応
	取組	①地域を学ぶ「トカラ科」の実践 ②テレビ会議システムの促進 ③地域合同の運動会・文化祭 ④A L Tの積極的活用
口之島での「学び」		①全職員による授業研究を通しての学び合い ②授業の専門性を生かした乗り入れ授業の推進
口之島を「体験」		地域素材を生かした体験学習 ①追い込み漁 ②海でのカヌー・遠泳大会 ③たけのこ採り ④田植え・もちつき体験
口之島からの「発信」		①新聞やコンクールへの投稿・応募 ②児童生徒会新聞の定期発行 ③H P・ブログの更新・充実
口之島を「知る」		①地域取組への計画的参加 ②タモトユリの栽培挑戦と観察 ③野生牛への関心高揚・観察 ④北緯30度線の歴史認識